国家社会主義の基本

ジャック•エルティスによるオリジナル作品
元白豪主義／国家社会主義ネットワーク（ニューサウスウェールズ州）
リーダー



国家社会主義と我々の人民の発展のために

目次

国家社会主義を1ページ以内で解説する

国家社会主義は、血は運命を決定づけるという根本的な真理の政治的表現である。真の国家とは、理念でも、市場でも、無作為に集まった個人の集まりでもない。それは、共通の祖先、歴史、文化、そして未来によって結びついた、生きた人種共同体、民族である。この血こそが、我々のアイデンティティ、創造性、そして力の源泉なのだ。

国家社会主義の「国家」とは、人種主権を肯定することを意味する。我々の祖国は、我々の民族だけのものである。我々は、大量移民によって国家の血縁関係を断ち切り、部外者が我々の仲間になれるなどと偽って主張する市民的ナショナリズムや多文化主義を拒否する。国家への忠誠は、まず我々の血縁への忠誠から始まる。

「社会主義」とは、文化、経済、法律、日常生活におけるあらゆる決定が、
社会主義は、人類全体の利益と発展に資するものでなければならない。階級闘争を煽り、偽りの平等を追求するマルクス主義社会主義とは根本的に異なる。また、人々の幸福よりも利益と金銭の崇拝を優先する資本主義も否定する。

国家社会主義は、人種共同体内における完全な階級的統一を要求する。
労働者と雇用主、富裕層と貧困層は血縁で結ばれており、決して敵同士ではない。
経済、国家、そしてあらゆる制度は、国民に奉仕するために存在する。私有財産と自由企業は、それが国民に利益をもたらす限りにおいて尊重される。

国家は国境を守り、家族を強化し、経済的自給自足（オートタルキー)を追求し、国民を分裂させたり弱体化させようとするあらゆる勢力を排除する。指導者は、人格、意志、献身において最も優れた、国民の中で最も優れた人々から生まれ、国家の成否に対する全責任を負う。

システム全体は自然法則に基づいている。すなわち、力が勝利し、階層構造は自然なものであり、有能な者が台頭して全体を発展させるのである。

国家社会主義は、国民の永遠の向上を要求する。各世代は、前の世代よりも強く、賢く、有能でなければならない。家族は、この未来が生まれ育まれる神聖な基盤である。

国家社会主義は人種を何よりも優先し、規律、団結、そして人民への奉仕を要求する。それによって、我々の人民は生き残り、繁栄し、より高次の存在へと到達することができる。

国家社会主義におけるナショナリズムの説明

国家社会主義におけるナショナリズムとは、国家が人種共同体であることを意味する。私たちは、共通の血、祖先、歴史、そして未来の運命によって結びついた民族です。

これは、「国家」という言葉の語源と一致しており、ラテン語の「natio」(人種、部族、民族を意味する)に由来する。

真の国家とは、誰でも参加できる単なる理念ではない。それは、何世代にもわたって同じ土地で暮らし、働き、守り続けてきた民族の自然な表現なのである。

NSは、我々の民族は人種的な集合体であり、我々の土地に対する人種的な主権を持ち、我々の民族の中で最も優れた人々によって統治•指導されなければならないと断言する。

この血こそが、私たちのアイデンティティ、文化、強さ、そして生存権の基盤です。私たちの存在のすべては、この血から生まれています。国家への忠誠は、私たちの血への忠誠から始まります。

私たちは、大量移民と多文化主義によって血縁関係を断ち切り、外国人が私たちと同類であるかのように私たちを説得しようとするリベラルな「市民的ナショナリズム」を拒否します。

血を抜きにした国家は砂上の楼閣のようなもので、時が経つにつれて衰退し、崩れ落ちる。NSは、何よりもまず我々の血を守り、高めていくことを要求する。血が根付き、団結している時、国家は存続し、繁栄する。

アドルフ•ヒトラーが言ったように、 「最も貴重な財産は、自国民である。」

私たちの人種は、私たちが今ある姿、そしてこれからなろうとする姿の生きた基盤であり、何よりもまず守られなければならない。

国家社会主義における「社会主義」とは何か、そしてそれがマルクス主義社会主義とどのように異なるのかを解説する。

国家社会主義における社会主義とは、あらゆる決定や行動が、人種（ひいては国家)全体の集団的利益に資することを意味する。

私たちは人種的な集団であり、人種全体の利益と発展につながる決定を下さなければなりません。この理念は、政府から発せられ、文化、法律、政治のあらゆる面に浸透しています。

一人ひとりが、日常生活を送る中で、人類を高めるような社会的に望ましい選択や行動をとる責任を負っている。

企業や産業は、事業活動において人種の利益のために行動しなければならない。つまり、我々の人々を毒したり、我々の人種に害を与えたり損なったりする非倫理的な産業はあってはならない。

政府は常に二元的な視点から政策を評価し、実施しなければならない。それは人種にとって良いことなのか、悪いことなのか？これは私たち国民全体を前進させるのか、それとも後退させるのか？

ヒトラー主義的社会主義は、マルクス主義社会主義が個人から私有財産を没収する手法とも、労働者が産業界や地主に対して蜂起する行為とも、あるいは「誰もが平等である」という空想的な平等主義社会とも、何の関係もない。

国家社会主義は個人を尊重する。なぜなら、人種的な才能と創造性は、我々の血という集合的な源泉から、個人として湧き上がってくるものだと理解しているからだ。

自由市場は尊重され、その産業が人種（ひいては国家)にとって有益である限り、繁栄が認められる。

すべては国民の向上を中心に据えて行われるべきだ。

自然法

自然法とは、自然そのものに内在する永遠不変の法則であり、嘘、歪曲、イデオロギー、あるいは転覆行為から解放された状態において、すべての生命を支配する原理である。

自然法則によれば、力は弱さに打ち勝ち、有能な者は無能な者より優位に立ち、階層構造はあらゆる生命システムに内在するものである。
階層構造は、あらゆる生物に共通する自然な秩序である。強い者が先頭に立ち、適者が生き残り、才能ある者が創造し、そしてこの自然淘汰を通して人類は進歩していく。

自然界のあらゆる生物は、常に生存と繁殖のために戦っている。自然は平等ではなく、能力、努力、そして適応力を評価する。これらの法則に逆らう種族は弱体化し、滅びる。

国家社会主義は、自然法こそがすべての真の秩序の基盤であると断言する。

私たちはこれらの原則を考案したわけではありません。私たちはそれらを理解し、遵守しています。

我々の種族は、他のあらゆる生物と同様に、自然の法則に従う。強い者が弱い者を導き、適者が子孫を残し、有能な者が指導者となる。これは残酷なことではなく、生命の摂理そのものである。自然の法則に従うことで、我々の種族はより強く、より健康になる。

私たちは、存在しない平等を人為的に押し付け、弱者を支えるために強者を罰する自由主義を拒否する。

私たちは今、自然の摂理を完全に逆転させたシステムの中にいる。自由主義の末期は、男性が女性になれると主張しようとしている。私たちの政治家を見れば、弱さと臆病さに「導かれている」ことがわかる。

このシステムは持続不可能であり、自然に反するものです。自然に反逆することはできません。なぜなら、自然は最終的に反逆を正すからです。

階級の結束対階級の分裂

国家社会主義がマルクス主義と異なるもう一つの点は、階級分裂ではなく階級統一を前提としている点である。

国家社会主義は、社会全体における完全な階級統一を要求する。階級が存在すること自体は何ら問題ではない。富裕層、中産階級、貴族などは常に存在するだろう。社会における階級は避けられないものであり、自然の摂理の結果である。

最も努力し、生まれ持った才能、知性、能力を備えた人々、つまり我々の人種の中で最も優れた人々が、健全な実力主義社会において頂点に立つべきである。

共通の血で結ばれた階級間の調和を図ることは極めて重要である。なぜなら、我々は皆同じ民族（人種)であり、互いに争うことは国家にとって破壊的な行為だからである。

私たちは皆、人種集団としての私たちの民族の発展という共通の目標に向かって、絶えず努力するために団結しなければならない。

マルクス主義は、意図的に「階級闘争」と呼ばれるものを扇動しようとする。それは分裂を招き、人種を完全に互いに敵対させ、国家の統一と結束を損なうものである。

分裂した家は立ちゆかない。国家社会主義の下では、マルクス主義的な階級分化など、人種的統一を崩そうとするいかなる試みも、国家転覆行為とみなされるのは当然である。

国家社会主義が資本主義を拒絶する理由

資本主義とは、何よりも金銭を崇拝する思想である。これは、人種、私たちの健康、そして私たちの未来を犠牲にして成り立っている。

既に述べたように、国家社会主義の下では、経済は人民に奉仕するために存在し、その逆ではない。富、生産、貿易は、人種集団の発展に貢献しなければならない。利益を人々の幸福よりも優先する経済システムは、我々の存在にとって敵対的なものである。

資本主義は人間を商品、国家を市場と見なし、どちらも搾取の対象として捉えます。際限のない成長、安価な労働力のための国境開放を要求し、賃金を下げ生活水準を低下させるために外国人を輸入する結果となります。土地を投機的な資産に変え、自国民を家や家族から追い出します。根無し草のような国際金融を優遇する一方で、

国家。

金銭が最優先事項になると、競争そのものは取るに足らないものとなる。
資本家にとって、他のすべてはより多くの金を稼ぐことよりも二の次である。

資本主義は自由を約束するが、私たちを債務奴隷と人口置換へと導く。それは、人類の未来を犠牲にした際限のない消費のシステムである。国家社会主義は人類を最優先する。

お金。

血ではなく金を崇拝する国は滅びるだろう。

高利貸し

高利貸しとは、特に法外な利率で金銭を貸し付ける行為であり、貸し手は自ら生産的な労働をすることなく、借り手の労働から利益を得る。

国家社会主義は、高利貸しを根本的に寄生的で有害な力として拒絶する。高利貸しは、非生産者が生産者の労働によって富を築くことを許し、金銭を人々の役に立つのではなく、人々から富を搾取する武器に変えてしまう。

高利貸しの下では、借金は一種の奴隷制となる。借り手は利息を支払うためだけに際限なく働かなければならない一方、貸し手は何のリスクも負わず、際限のない利益を得る。これは自然の法則を逆転させる。強く生産的な者が搾取され、非生産的な者が富を得る。これは、誠実な生産や国民への奉仕ではなく、借金によって国家を支配する金融投機家の階級を生み出す。

人種。

高利貸しは本質的に複利的な性質を持つ。負債が大きくなればなるほど、利息も大きくなり複利的に増え続け、最終的には負債が際限なく増加し続けるため、国家にとって自己成就的な破滅の宣告となる。

高利貸しは自由主義資本主義体制の生命線である。中央銀行は無から紙幣を刷り、インフレによって通貨の価値を下げ、若者や将来の世代に返済不可能な負債を負わせる。その一方で、同じ金融階級はあらゆる取引から利益を得ている。これは国民に対する経済戦争に他ならない。

それに対し、国家社会主義は、貨幣と信用が民族と国家に奉仕することを要求する。国家社会主義の下では、銀行は国家と民族に従属する。

融資の利子は厳しく制限されるか、あるいは寄生的な搾取ではなく真の価値創造を奨励する制度に置き換えられる。ドイツのナチス党は、国際金融の力を打破し、信用を国家の再生と自給自足へと向けることで、これを実証した。

国家社会主義は、この寄生的な貸付制度に宣戦布告する。我々は高利貸しの毒を拒絶し、国民の永遠の発展に資する経済へと置き換える。

高利貸しは、別の言い方をすれば窃盗に等しい。我々はそれを廃止する。

金融投機

投機とは、株式、土地、住宅、商品などの資産を、生産や生産的な利用のためではなく、純粋に後日より高い価格で転売して不当な利益を得る目的で購入する行為である。

このプロセスは国家の発展や進歩に何ら貢献せず、いかなる製品やサービスも生み出されず、提供されることもない。

国家社会主義は、投機を健全な経済を破壊し、人種に害を及ぼす有害で寄生的な力として拒絶する。

資本は工場建設や食料生産、住宅供給といった本来の目的ではなく、手っ取り早い金銭的利益を追い求める。投機家はほとんどリスクを負わず、実質的な労働も行わずに、誇大宣伝、恐怖、あるいは市場操作によって引き起こされる価格変動から莫大な富を搾取する。
投機は自然法則を逆転させる。それは狡猾な寄生虫に報いるが、
作成する。

今日のオーストラリアでは、住宅投機はさらに深刻な被害をもたらしている。投資家は住宅を転売して利益を得るための資産とみなし、若い白人家族が購入できる価格をはるかに超える高騰を招いている。これは結婚を遅らせ、出生率を低下させ、私たちの人々を生涯にわたる巨額の借金や賃貸生活を強いることになり、結果として人口動態上の自殺行為につながっている。

土地と住宅は、投機的な富の搾取の場ではなく、家族のための安定した住まいとして、人種のために役立つべきである。

ドイツ国家社会主義ドイツ労働者党（NSDAP)は、土地投機をはじめとするあらゆる不労所得の廃止を要求した。NSDAPは証券取引所を厳しく規制し、投機的な取引を制限し、資本を生産的な自給自足と再軍備へと振り向けた。彼らは、投機が国家を不安定化させ、国民を犠牲にして根無し草のような金融業者を肥え太らせることを理解していた。

国家社会主義は、すべての経済活動が人種共同体に奉仕することを要求する。
資産は、家族の住居、産業の発展、食料やエネルギーの確保など、生産的に活用されるべきであり、金銭的利益のために投機的に利用されるべきではない。

私たちは、このような不労所得のシステムを拒否します。住宅と土地は、生活し、人類を築くためのものであり、利益のために転売するためのものではありません。投資は、生産的な産業への投資を通じて、国家に貢献するものでなければなりません。

国家社会主義の下では、投機を禁止し、資本を国民の永遠の発展のために振り向けるだろう。

労働組合問題

労働組合とは、労働者が雇用主と賃金、労働条件、紛争について団体交渉を行う組織であり、ストライキ、サボタージュ、労働争議などの手段を用いる。

国家社会主義は、自由主義的およびマルクス主義的な意味での労働組合を否定する。それらは根本的に共産主義的な組織であり、階級闘争を制度化することによって社会を不安定化させることを目的としている。

労働組合は国を敵対する陣営に分断する。労働者は雇用主と対立させられる。労働組合は、人種共同体の利益ではなく、国際的な破壊活動家たちの利益になるような、憤り、妨害行為、混乱を助長する。

彼らのストライキは生産を麻痺させ、人種に害を与え、最終的な共産主義による政権奪取のために国家を弱体化させるというマルクス主義の目標を推し進める。

国家社会主義は、労働者は代表されなければならないが、それは国家機関によって代表されなければならないと主張する。労働者と雇用主は皆同じ血を引いており、決して敵ではない。

ドイツ労働戦線（DAF)は、分裂を招く労働組合に代わり、階級対立を解消し、すべてのドイツ労働者を団結させ、共通の国家目標に向けて努力を集中させる、国家主導の単一組織を設立した。

DAFは、福祉、教育（雇用主と従業員の両方向け）、「喜びによる力」を育むレジャー（休暇)を提供し、労働者にとって公正な労働条件を確保した。
これは、破壊的な攻撃や妨害行為、分裂を招くことなく、国家によって監視•執行された。

苦情はすべて州が処理した。州は全人種の利益を念頭に置いているため、紛争の仲裁や、生産性、公平性、労働者の健康のバランスを取るための適切な決定を下す能力を信頼できる。

『我が闘争』より：「国家社会主義労働組合は階級闘争のための組織ではなく、同じ血で結ばれたあらゆる生産力を守るための組織である。国家社会主義労働組合の任務は、組合員を国民共同体の意識に基づいて教育し、来るべき国家存亡をかけた闘争に備えさせることである。」

国家社会主義は、生産における完全な人種的統一を要求する。我々は、いかなる階級分断や転覆の手段も拒否する。労働者は人種共同体の一員として保護され、尊厳を与えられるべきであり、決して自らの民族に対する武器として利用されてはならない。

人種への奉仕としてのリーダーシップ

国家社会主義の下では、指導者は人種の中で最も優れた人物である。彼は人種への奉仕と義務感から指導者となる。我々の民族を前進させ、人種の存続を確保することは、彼の責任である。

指導者とは、我々の血潮から生まれた才能ある人物であり、人格、意志、知性、忠誠心において最も強い者です。彼は、苦難、能力、そして長年にわたる民族への献身を通して、疑いの余地なく自らの力量を証明するのです。彼は民衆の意志を体現する存在です。

国家社会主義者は、民主主義に内在する弱点や欠陥、すなわち、大衆による統治や、口先だけの妥協者で溢れた議会制度によって責任と説明責任が希薄化され曖昧になる委員会制度を拒絶する。

国家社会主義指導者は、成功も失敗もすべてにおいて全責任を負う。ヒトラーは「権力は下へ流れ、責任は上へ流れる」と述べた。指導者はあらゆる結果について国民に全面的に責任を負う。

我々の民族は、民衆を前進させる強力な指導者を必要としている。さもなければ、我々は衰退し、弱体化し、衰退していくだろう。

州は人種に奉仕する

指導者は人類のしもべであり、人類を永遠の繁栄と向上へと導く存在であると述べてきた。同じ原則に基づき、国家（政府)もまた人類のしもべなのである。

国家社会主義の下では、国家は人民の主人ではない。国家の存在目的はただ一つ、国家が統治し率いる生きた人種共同体を保護、維持、発展させることである。

国家は人民の意思を組織的に実現する機関である。指導原則に基づき、権限は下方へと流れ、責任は上方へと流れる。国家は人民の発展に責任を負う。あらゆる決定、あらゆる法律、あらゆる行動は、国家社会主義的な二元論に基づいて検討される。すなわち、これは我々の血統に奉仕し、我々の民族を強化し、我々の永遠の未来を確保するものか、それとも民族に害を及ぼすものか、という問いである。

国家は国境を侵略から守り、健全な家族と地域社会を育む政策を通じて国民の血を守ります。経済を自給自足へと導き、外国資本による搾取の可能性を排除します。そして何よりも重要なのは、国家は国内外を問わず、国民の団結を破壊しようとするあらゆる勢力を粉砕することです。

国家社会主義者は、国家を国境のない市場とみなし、外国人の流入や根無し草のような資本による国力と資源の枯渇を許す自由主義国家を拒否する。国家社会主義の下では、国家は国民の擁護者であり、同時に国民の発展を促進する存在である。

ヒトラーは『我が闘争』の中でこう述べている。

「国家は目的を達成するための手段である。その目的は、肉体的にも精神的にも均質な生命体の共同体の維持と発展にある。この維持そのものが究極の目標である。」

国家は人種とその発展および維持に奉仕する。

それ以外はあり得ない。そうでなければ、存在意義はない。

経済的自給自足 :国家の自給自足

経済的自給自足とは、国家の自給自足と経済的独立を意図的に目指す政策である。それは、人種共同体が、生存と発展に不可欠な食料、エネルギー、原材料、および工業製品を自国で生産し、外国貿易や国際金融／グローバリズムへの依存を最小限に抑え、理想的には完全に排除することを意味する。

国家社会主義は、自給自足こそが民族主権の根幹を成す要素であると断言する。経済は人民に奉仕するためだけに存在し、根無し草の資本家を富ませたり、外国勢力に対して脆弱な立場に置いたりするためには決して存在しない。

自給自足は、国民が飢餓、制裁、脅迫によって屈服させられることを防ぎます。それは、国家を害する国際的な高利貸しや投機の鎖から民族を守ります。生産を国民の手に委ねることで、国家の回復力を高め、自然の法則（強い民族は自らを完全に維持できる)に沿い、将来のあらゆる闘争に備えることができます。

自由主義資本主義は正反対で、相互依存とグローバリズムを崇拝する。国境開放によって安価な労働力が大量に流入し、対外債務は世代を超えて人々を奴隷化し、輸入品は敵対的な供給業者のなすがままに私たちを置く。その結果、国家は経済圏へと縮小し、弱体化し、搾取されやすい存在となる。

自給自足は必ずしも「最も容易な」選択肢ではないが、不可欠であり、規律、革新、そして時には犠牲を必要とする。真の独立への唯一の道は自給自足である。自らの生産を管理する民族は、自らの運命を自ら管理するのだ。

アドルフ•ヒトラーはこう述べた。「国家の利益はただ一つであり、ドイツを政治的にも経済的にも自給自足の状態にしなければならないという見解もただ一つである。要するに、可能な限りあらゆる分野で100パーセントの自給自足を達成することが必要だと私は考える。」

国家社会主義は、いかなる外部勢力への依存も拒否し、自給自足を要求する。そうすることで、我々の人民は国際システムの支配から解放され、永遠に向上することができる。

家族は国家の礎である

家族は国家の礎である。それは我々の民族にとって最も小さく、最も自然な単位である。それは民族が生まれ、育まれ、受け継がれていくゆりかごなのだ。

我々の民族のあらゆる天才、あらゆる指導者、あらゆる創造者、あらゆる芸術家、そして我々の民族を発展させるあらゆる力強い男女は、家族から生まれる。
核家族とは、血縁関係が受け継がれ、価値観が植え付けられ、集団への忠誠心が初めて学ぶ場所である。

強い家族は強い子供を育む。強い子供は成長して強い国家を築く。弱い、あるいは崩壊した家族は、人種共同体全体を弱体化させる。

国家社会主義は、家族をあらゆるものの基盤として肯定する。健康な白人の子供を産み育てる母性を最高の使命として尊ぶ。家族を退廃から、子供を持つことを遅らせたり妨げたりする経済的圧力から、そして男女の自然な役割を損なうイデオロギーから守る。

マルクス主義と自由主義は、家族を弱体化させ破壊することで、集団として私たちが持つ人種的な絆を断ち切り、人々を搾取するための転覆工作を企てている。

国家は、民族の奉仕者として、結婚、子育て、住宅所有を国民が実現できるようにする政策を通じて、家族を支援し、能力を高める義務を負っている。

アドルフ•ヒトラーは「家族は国家の核である」と述べた。

家族をないがしろにする国家は、その根幹から崩壊する。それぞれの家族に、我々の民族の未来がかかっているのだ。

永遠の昇天 :来るべき男

国家社会主義は、単に我々の人種の存続のためだけではなく、我々の民族をより高次の存在へと高め、発展させようとする永遠の衝動のためでもある。

白人ヨーロッパ人は、常に革新し、改善し、発展しようとする生来の衝動を持っている。我々の民族は、過去にほぼ不可能なことや想像を絶することを成し遂げてきた。白人の卓越性は、世界に数え切れないほどの革新と発明をもたらしてきた。国家社会主義はこれを体系化する。

我々の民族の遺伝的特性を政治思想に取り入れる。

私たちがこの地上で行うすべてのこと、貢献することは、私たちの後に続く人々、すなわち来るべき人類のためです。社会と私たちの血統の両方を向上へと導くというこの哲学は、国家社会主義と健全な社会にとって不可欠な要素です。

国民の各世代は、前の世代の功績の上に築き上げ、国民と国家を発展させていくべきである。停滞や衰退は容認できない。

自由主義の下では、ベビーブーム世代以降の世代は、教育水準の低下、能力や適性の低下、そして深刻な経済的困難や苦難へと、次々と衰退していく様を目の当たりにしてきた。これは、未来を担う人々のための社会を築くという理念とは正反対であり、むしろ他のすべての世代を犠牲にして、ある世代だけを豊かにすることを選んでいるに過ぎない。

国家社会主義は永遠の向上を要求する。来るべき人類は、今の我々よりも強く、有能で、創造的で、賢明でなければならない。彼を創造するのは我々の責任である。

前進への道 :オーストラリアと
世界中で

国家社会主義者は、可能な限り効率的かつ規律ある方法で集団化と組織化を図るべきである。

イデオロギー的基盤と教育段階は確かに重要だが、それは当然ながら実践的かつ現実的な組織活動へと発展しなければならない。国家社会主義者は、我々の人種の最良の部分を代表する指導者を中心に、階層的かつ実力主義的な方法で組織を構築すべきである。そして、自国で利用可能なあらゆる組織化手段を用いるべきである。

我々の運動が拡大し、体制が規制を強めるにつれ、国家社会主義者は、最大限の効率性を確保しつつ、体制に活動家を投獄する機会を与えないよう、組織運営において適応性、多才さ、戦術性、そして知性を備えなければならない。

利用可能なモデルは多数あります。熟練した国家社会主義組織者は、それらすべてを活用すべきです。活動、街頭デモ、そして「部族と訓練」活動クラブは、理想的には一つのまとまりのあるものに統合されるべきです。
構造。

より制限の厳しい国に住む人々にとっては、他に組織化する手段がない場合、ナチス議会主義を追求することもできる。

暴力行為を助長したり示唆したりする人物は避けてください。そのような人物は直ちにあなたの周囲から遠ざけてください。

最も重要なのは、特定のモデルそのものではなく、たとえ一部のモデルが他のモデルよりも効果的であったとしても、そのモデル自体ではない。

最も重要なのは、国家社会主義の組織化と中央集権化が実際に進行しているということだ。我々の世界観は、政治イデオロギーを実現するために、先鋒となる人々が組織化されることを求めている。

今こそ私たちの時です。未来は、努力を惜しまない者、つまり、断固とした決意と勇気を持ち続け、私たちの運動への揺るぎない意志と献身を貫く者のものです。